

硬膜外鎮痛法

陣痛時の硬膜外鎮痛法 – 知っておいていただきたいこと

このカードはまとめです。詳しくは www.oaformothers.info で。ご不明な点があれば麻酔科医にご相談ください。

硬膜外鎮痛法でさせていただく処置

- 処置前に静脈内に点滴の管を入れさせていただきます。
- 硬膜外鎮痛用のチューブを背中に挿入している間、じっとしておいてください。もし子宮が収縮するようなら麻酔科医に知らせてください。
- 普通 20 分ほどで処置が完了し、そのおよそ 20 分後に効果が現れます。
- 時々、十分に効かないことがあります。その場合、チューブの位置を調整したり、挿入しなおしたりしないといけないことがあります。

硬膜外鎮痛法の利点

- 普通、痛み止め効果は非常によいとされています。
- 場合によっては、痛み止め効果をより早くするため、脊髄も膜下鎮痛法をまずすることがあります。
- あなたがベッドの周りを歩くことができるように局所麻酔薬の量や種類を時々変えることがあります。これを低量、あるいは「歩ける」硬膜外鎮痛法と呼んでいます。
- 硬膜外鎮痛法は原則、副作用がありません。
- 多くの場合、十分な鎮痛を得られます。
- 場合によっては鎮痛効果を速めるため、脊髄も膜下鎮痛をすることがあります。
- 局所麻酔薬の種類や量を調節して、あなたがベッドの周りを歩けるようにします。これが低量硬膜外鎮痛法あるいは歩ける硬膜外鎮痛法です。
- 硬膜外鎮痛法があなたに悪影響を及ぼすことはふつうありません。
- 帝王切開手術が必要になれば、硬膜外チューブから薬を追加することで可能となります。

硬膜外鎮痛法の問題点

- 硬膜外鎮痛で濃度の濃い局所麻酔薬を多く入れると、肢がしばらくしびれたり、分娩時に産科医が器具を用いて赤ちゃんを娩出されなければならなくなる場合があります。
- 硬膜外鎮痛法を受けていると、陣痛の第二期が少し長引くことがあります。
- 血圧が下がったり、かゆみを覚えたり、熱っぽくなる場合があります。
- チューブを挿入していた部位が腫れぼったくなる場合がありますが、数日でおさまります。硬膜外鎮痛処置で腰が痛くなることはありませんが、妊娠、出産時に腰痛になることはめずらしくありません。

硬膜外鎮痛法による合併症の一覧は裏面に記載してあります。



硬膜外鎮痛法

陣痛軽減のための硬膜外鎮痛法、脊髄くも膜下鎮痛法による問題点

問題点	頻度は？	どれぐらい起こりやすい？
血圧が下がる	50 分の 1	ときどき
鎮痛効果が十分でないため、他の痛み止めが必要となる 帝王切開術が必要となったときに、鎮痛が十分でないために全身麻酔が必要となる	8 分の 1 20 分の	よく起こる ときどき
強い頭痛	100 分の 1 (硬膜外鎮痛) 500 分の 1 (脊髄くも膜下鎮痛)	まれ
神経にダメージ (下半身の一部の感覚が麻痺したりあしに力が入りにくくなる) 上記の症状が 6 ヶ月以上続く	一時的に起こる - 100 分の 1 永久的 - 13,000 分の 1	まれ まれ
硬膜外が膿む	50,000 分の 1	極めてまれ
髄膜炎	100,000 分の 1	極めてまれ
硬膜外に血の塊りが溜まってしま う	170,000 分の 1	極めてまれ
意識を失ってしまう	100,000 分の 1	極めてまれ
神経麻痺などの重篤な神経麻痺	250,000 分の 1	まず起こらない程度

ここに記載したデータは大まかな値で、必ずしも正確なものではありません。また施設によっても頻度に違いがあります。

表面では、陣痛に対する硬膜外鎮痛法が記載されています。

